

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会  
(事務局：J A 福岡中央会担い手サポートセンター)  
(公 印 省 略)

## 営農情報 2

# 大豆の遅播き対策について

本年は6月下旬から断続的に降雨が続き、7月上旬までに県内の多くで400mmを超える降水量となっています。

大豆播種は、県北部の一部で6月下旬に行われましたが、7月上旬までの播種面積は1.3%にとどまっています。週間予報によると7月15日頃から天気は一時回復しますが、変わりやすい天気が続くようで、播種の遅れが懸念されます。

播種が遅れると開花までの期間が短くなるため、生育量不足により低収となる恐れがあります。ほ場の水分が適度になったら早急に播種を開始し、7月末までの播種作業の完了に努めましょう。

### 1 遅播きでの播種のポイント

- 栽培暦を参考に、播種量を増やして出芽本数を確保する。
- 基肥を窒素成分で2kg/10a施用する。
- 出芽時の腐敗防止のため、種子消毒を必ず実施する。

**【出芽不良で播き直しが必要な判断目安】**・・・健全な株が7割以下と見込まれる場合  
・播種後の激しい降雨などにより、クラスト（土膜）ができ、出芽不良となる場合があるため、播種後1週間ごろに出芽状況を確認する。

### 2 土壌水分に応じて播種の深さを調整

土壌水分に応じて、播種深度を調整します。

- 土壌水分が多い場合は、播種深度を2～3cmとし、播種後の鎮圧は行わない。
- 土壌が乾燥している場合（しばらく降雨の予報がない場合）は、基準よりやや深い5～6cmの播種深度とし、播種後に鎮圧する。
- 部分浅耕一工程播種では、鋤床に播種するよう播種深度を調整する。

### 3 播種が梅雨明けになる場合の注意点

- 梅雨明けすると強い日差しで土壌水分が急激に失われ、出芽障害をおこします。播種直前まで耕起せず、播種深度を深めにし、しっかり鎮圧する。
- 天気予報でしばらく降雨がない場合は、出芽を確認後に本暗渠の栓を閉めて乾燥害を防ぐ。

以上